

■ 8-JP	十二指腸水平部、膵臓側に位置する上皮性腫瘍に対する逆行性内視鏡を用いた D-LECS D-LECS used retrograde endoscopy for duodenal epithelial tumor located pancreas side and 3rd. part of duodenum. Incompleted case and completed case
--------	---

代表演者：小野田裕士先生（香川県立中央病院消化器外科）

Speaker: Yuji Onoda, M.D., Kagawa prefectural central hospital, Department of Gastroenterological Surgery

共同演者：[香川県立中央病院消化器外科] 橋田真輔、田中則光、大橋龍一郎

[香川県立中央病院消化器内科] 石川茂直、稲葉知己

近年、十二指腸腫瘍に対する Laparoscopy and Endoscopy cooperative surgery(D-LECS) の報告が散見されるが、十二指腸深部あるいは膵臓側に位置する病変に対する報告は少なく、確立された手技も存在しない。

我々は、これまでに十二指腸水平部、膵臓側の腺腫に対して、逆行性内視鏡を併用した D-LECS を 2 例経験した。初回例は、D-LECS を完遂できず、腹腔鏡下十二指腸切除術に術式を変更し、2 例目は逆行性内視鏡を併用した D-LECS を完遂した。いずれの症例も術後合併症を認めず、各々術後 18 日目と 10 日目に退院した。

本手技を施行する際の留意点として、十二指腸水平部の授動の際に、膵頭部からの剥離は行わない事、また、課題としては、逆行性内視鏡挿入のための空腸の体外への最適な誘導部位や ESD 施行部位の対側で正確に十二指腸を開窓する方法など更なる検討を要する。

手術手技を供覧し、本手技を行う上での留意点や課題、問題点を本手技の妥当性も含めて議論したい。